

企画展 上野駅と猪熊弦一郎の《自由》

2026年3月1日(日) - 6月28日(日)

上野駅の猪熊弦一郎による壁画《自由》が修復を終え、再び公開



猪熊弦一郎 《自由》 1951年 撮影：木奥恵三(2025年2月)

展覧会名	上野駅と猪熊弦一郎の《自由》
会期	2026年3月1日(日) - 6月28日(日)
休館日	月曜日(ただし5月4日は開館)、5月7日(木)
会場	丸亀市猪熊弦一郎現代美術館3階展示室C、2階展示室A

## 開催趣旨



《自由》修復中のJR上野駅グランドコンコース 撮影：木奥恵三(2025年6月)

置かれた「『自由』を修復しています」という横断幕が意味深長とSNSで話題になり、壁画自体も注目されました。

《自由》の修復を含め、現在リニューアル工事が進行するJR上野駅グランドコンコースでは、クリエイティブユニットSPREADが《自由》から採集した色彩を現代的にアレンジした色の組み合わせ「フリーダムカラー」を用いて空間全体の調和を図る計画も進んでいます。

本展では、上野駅の壁画《自由》に焦点を当て、その成り立ちから現在までをご紹介します。《自由》というタイトル、「絵画は独占するものでなくより多くの人々を喜ばせ、みちびくもの、多くの人々のためになるべきもの」という猪熊の言葉、それぞれに込められた画家の思いを再考する機会となれば幸いです。



参考：真田将太郎氏によるX投稿  
©真田将太郎

## 本展の見どころ

### 上野駅と壁画《自由》の歩みをたどる

1883年に開業し長い歴史を持つ上野駅と、1951年に制作され「北の玄関口」の象徴となった猪熊の壁画《自由》。上野駅の歴史を年表で紹介するとともに、壁画《自由》が駅の一部としてどのように関わってきたのかをたどります。

### 壁画《自由》のスケールを体感する

スケール感を体感するため、幅約27メートル、高さ約5メートルに及ぶ壁画《自由》の外枠を、展示室の壁に原寸大で型取りします。あわせて、猪熊が北国の風物をモチーフに描いた壁画の一部を原寸大写真で展示します。

### 壁画《自由》の修復作業の現場を紹介

三度目の大規模修復で行われた、普段は目にするのでできない緻密な修復作業の様子を、写真や実際に使用された道具とともに紹介します。

### 「フリーダムカラー」による空間全体の調和

クリエイティブユニットSPREADが壁画《自由》から採集した色彩「フリーダムカラー」を用いて、空間全体の調和を図る計画を紹介します。

# 展示構成

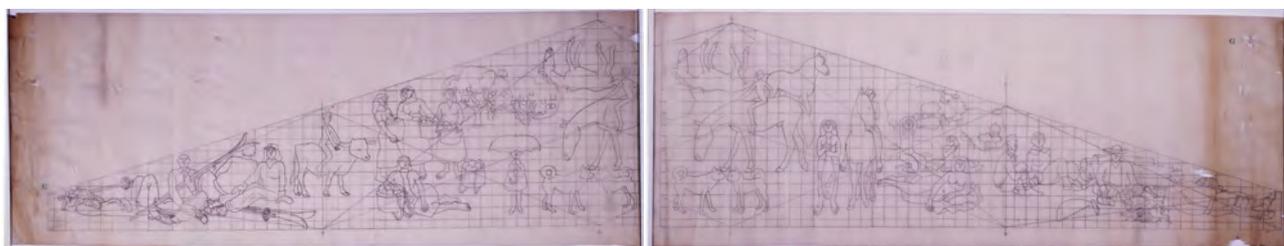
## 1章. 上野駅について

上野駅は、1883年(明治16)に開業し、2023年(令和5)に開業140周年を迎えました。長い歴史を持つ、東京を代表する駅の一つで、東北や北陸方面行きの列車が発着する東京の「北の玄関口」として親しまれてきました。多くの人が行き交う交通の要所でありながら、周辺には自然豊かな上野恩賜公園や多様な文化施設、古い町並み、情緒あふれる下町文化が広がっています。

今展では、上野駅の歴史を年表でたどり役割や特徴を紹介するとともに、その歴史に含まれる猪熊の壁画《自由》が駅の一部としてどのように歩んできたのかを概観します。

また、東日本旅客鉄道株式会社の協力により、同社が製作しJR上野駅構内で上映していた映像《上野発の名列車》も特別に展示し、上野駅の魅力に迫ります。

## 2章. 壁画《自由》について



猪熊弦一郎 《自由》原画 1951年

壁画《自由》が制作された経緯、当時の制作の様子、絵に込められた作者の思いなどを下絵や資料でご紹介します。

また、幅約27メートル、高さ約5メートルに及ぶ壁画の大きさを体感できるよう、壁画の外枠を原寸大で展示室の壁に型取り、そこに絵の一部を原寸大写真で再現します。

さらに、別の壁に一色で塗りつぶされたもう一つの原寸大の枠に、会期中の関連プログラムを通して、参加者が少しずつ線や色を加えていく予定です。

\*関連プログラムを開催予定です。詳細は決まり次第お知らせします。



1,2: 修復中の《自由》(部分) 撮影: 木奥恵三(2025年6月)

3,4: 猪熊弦一郎 《自由》下絵 1951年

## 展示構成

### 3章.これからの上野駅と壁画《自由》

現在、JR上野駅グランドコンコースでは、大規模なリニューアル工事が進行しています。そのなかで、壁画《自由》に関わるプロジェクトを2つ、ご紹介します。

#### ①三度目の大規模改修

小さなカンヴァス画に施すのと同じ緻密で丁寧な修復作業が、巨大な壁画に対して半年以上かけて行われました。作業を担った「有限会社修復研究所二十一」は、前回、2002年の修復も手がけています。



左, 右: 《自由》修復の様子 撮影: 木奥恵三(2025年6月)

#### 有限会社修復研究所二十一

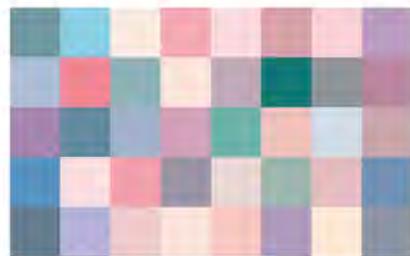
1972年創立。全国の美術館、博物館、個人等が所蔵する油彩画、水彩画、版画、デッサン、さらにこれらのカテゴリーに含まれない作品まで、多岐にわたる作品の修復を手がける。猪熊弦一郎作品の修復も数多く行っており、2008年には慶應義塾大学学生食堂の壁画《デモクラシー》の修復も担当した。

#### ②フリーダムカラー

空間全体の調和を図るために、クリエイティブユニット「SPREAD」が《自由》から採集した色彩を現代的にアレンジした色の組み合わせ「フリーダムカラー」。その制作プロセスをご紹介します。



SPREAD 《自由》の色彩の採集(1回目) 2024年



SPREAD 《UENO FREEDOM COLOR》 2024年

#### SPREAD

2004年に山田春奈と小林弘和が立ち上げたクリエイティブユニット。「あらゆる記憶を取り込み『SPREAD=広げる』クリエイティブを行う」ことをモットーとし、グラフィック、プロダクト、展示などのデザインやディレクションを手がける。2025年、四国村ギャラリー(高松)において「猪熊弦一郎 Form, People, Living 身の回りにある、秘密と美しさ」展のディレクションを担当。

## 開催概要

展覧会名	上野駅と猪熊弦一郎の《自由》
主催	丸亀市猪熊弦一郎現代美術館、公益財団法人ミモカ美術振興財団、独立行政法人日本芸術文化振興会、文化庁
協力	東日本旅客鉄道株式会社、SPREAD、有限会社修復研究所二十一
会場	丸亀市猪熊弦一郎現代美術館 3階展示室C、2階展示室A
会期	2026年3月1日(日)－6月28日(日)
開館時間	10:00－18:00(入館は17:30まで)
休館日	月曜日(ただし、5月4日は開館)、5月7日(木)
観覧料	一般1,500円(団体割引1,200円、市民割900円) 大学生1,000円(団体割引800円、市民割600円) 高校生以下または18歳未満・丸亀市内に在住の65歳以上・各種障害者手帳をお持ちの方とその介護者1名は無料 *同時開催の常設展「猪熊弦一郎展 20歳から90歳まで」の観覧料を含みます。 *団体割引は20名以上の団体が対象です。 *市民割は丸亀市民が対象です。チケットご購入時に証明する書類(運転免許証、保険証など)のご提示が必要となります。団体割引を含み、他の割引との併用は出来ません。

### 同時開催の常設展

「猪熊弦一郎展 20歳から90歳まで」

会場：2階展示室B

### チケット購入案内

一般および大学生チケットは、「JRE MALL チケット」(<https://event.jreast.co.jp/shop/detail/a106>)にて特別価格(団体割引料金)でお求めいただけます。さらにJRE MALL チケットでご入館された方に、ミュージアムショップのポストカードを1枚プレゼントします。

## —— 関連プログラム

### キュレーター・トーク

本展担当キュレーター(古野華奈子)が展示室で来館者に見どころをお話します。

日時：2026年3月1日(日)、4月5日(日)、5月3日(日)、6月7日(日) 各日14:00 -

参加料：無料(別途、本展観覧券が必要です)、申込不要

### 親子でMIMOCAの日

高校生以下または18歳未満の観覧者1名につき、同伴者2名まで観覧無料となります。

日時：2026年4月25日(土)、26日(日) 各日10:00 - 18:00(入館は17:30まで)

## —— 出品作家プロフィール

### 猪熊弦一郎(いのくまげんいちろう)

- 1902年 香川県高松市生まれ。少年時代を香川県で過ごす。
- 1921年 旧制丸亀中学校(現 香川県立丸亀高等学校)を卒業。
- 1922年 東京美術学校(現 東京藝術大学)に進学、藤島武二教室で学ぶ。
- 1926年 帝国美術院第7回美術展覧会に初入選する。以後、1934年まで毎年出品し入特選を重ねる。
- 1936年 同世代の仲間と新制作派協会(現 新制作協会)を結成、以後発表の舞台とする。
- 1938年 渡仏、パリにアトリエを構える(~1940)。滞仏中アンリ・マティスに学ぶ。
- 1950年 三越の包装紙「華ひらく」をデザインする。
- 1951年 国鉄上野駅(現 JR 東日本上野駅)の大壁画《自由》を制作。**
- 1955年 渡米、ニューヨークにアトリエを構える。
- 1975年 ニューヨークのアトリエを閉じ、東京に戻る。冬はハワイで制作するようになる。
- 1984年 上野駅開業百周年記念として《自由》が初めて修復される。**
- 1989年 丸亀市へ作品1,000点を寄贈。
- 1991年 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館が開館。
- 1993年 逝去、90歳。
- 2002年 上野駅の大規模改修にあわせ、《自由》が修復される(2回目)。**
- 2025年 上野駅グランドコンコースのリニューアルにあわせ、《自由》の修復が始まる(3回目)。**



撮影：高橋章

広報用画像  
について

以下のURLまたはQRコードよりご申請ください。  
[https://www.mimoca.jp/press/post\\_107/](https://www.mimoca.jp/press/post_107/)



## —— 関連プログラム **追加情報**

### 27メートルの壁画をつくろう

上野駅にある猪熊弦一郎が描いた壁画《自由》は幅が約27メートルにおよぶ大きな五角形の作品です。本展では、その壁画と同じサイズの五角形を3階展示室Cの壁に再現しました。

本プログラムでは、展覧会会期中の4月から6月にかけて、全3回にわたるワークショップを実施します。参加者がこの五角形に色を塗ったり線を描いたりして、展示室に大きな壁画をつくります。また、6月には講師にクリエイティブユニット「SPREAD」を迎え、壁画を完成させます。

#### ①27メートルの壁にいろんな青をぬる

日時：2026年4月25日(土)、26日(日) 各日10:30 - 17:30

対象：どなたでも

参加料：無料(ただし18歳以上の参加者・同伴者は本展観覧券が必要)

定員：なし/申込不要、入退場自由

#### ②27メートルの壁でいのくまさんの線をなぞる

実施日：2026年5月9日(土)、10日(日)

対象：小学4年生以上

参加料：無料(ただし18歳以上の参加者・同伴者は本展観覧券が必要)

定員：あり/要申込

#### ③27メートルの壁にフリーダムカラーをぬる

講師：SPREAD

実施日：2026年6月6日(土)、7日(日)

対象：どなたでも

参加料：無料(ただし18歳以上の参加者・同伴者は本展観覧券が必要)

定員：あり/要申込

\*②、③の実施時間、申込方法等につきましては、決まり次第 WEB サイトでお知らせいたします。

### トークイベント「壁画《自由》の修復について」

昨年から今年にかけて、上野駅グランドコンコース壁画《自由》の三度目の修復を担った修復研究所二十一。今回の修復について、全体の流れ、個々の工程や道具の解説、エピソードなどをお話しいたします。最初はミュージアムホールでのトーク、その後、展示室に移動して写真や道具を見ながらギャラリートークを行います。

講師：渡邊郁夫(修復家/修復研究所二十一所長)、田中智恵子(修復家/修復研究所二十一)

日時：2026年5月6日(水・休) 13:00開場、13:30開演

会場：2階ミュージアムホールおよび3階展示室C

参加料：無料(ただし展示室のギャラリートーク時は本展観覧券が必要)/申込不要